

着物リメイク

蔵風香

着物の価値とサステナブル、明日が楽しくなる

続く

ミニライ



platine



思いは、生き続ける

二十歳になったとき、
祖母からあるプレゼントをもらいました。
それはお花の中心に一粒の真珠が添えられているネックレス。
どうやって手に入れたのか尋ねると
「今は亡きおじいちゃんがハワイで買ってくれたものだよ」と答えてくれました。
このネックレスは祖父が祖母へ気持ちを込めて贈った大切なプレゼント。
「そんな大切な物をもらっていいの?」と聞くと
「もうこのネックレスが似合う年じゃないし、
孫が身に付けてくれたら、おじいちゃんもきっと喜ぶよ」と
微笑んでいたのを覚えています。
最初は祖父から始まり祖母の手に、
そして自分へと長い時間をかけてネックレスが受け継がれました。
今は私の手にありますが、いつか手放すときがきたら
祖父たちの思いも一緒に繋げていきたいと考えています。
きっとその思いはネックレスの中でいつまでも生き続けると信じて。
あなたは家族や恋人など大切な人からもらった、思い入れの深い物がありますか?
あるとしたら、それは宝物。
大切な人と同じくらいたくさん愛してください。
この先宝物を持つ人々がもっと増えて、愛であふれる優しい世界になってほしいと思います。
プラチナペーパーを通してこの思いが様々な人たちに伝わりますように…



Rinako's colorful story

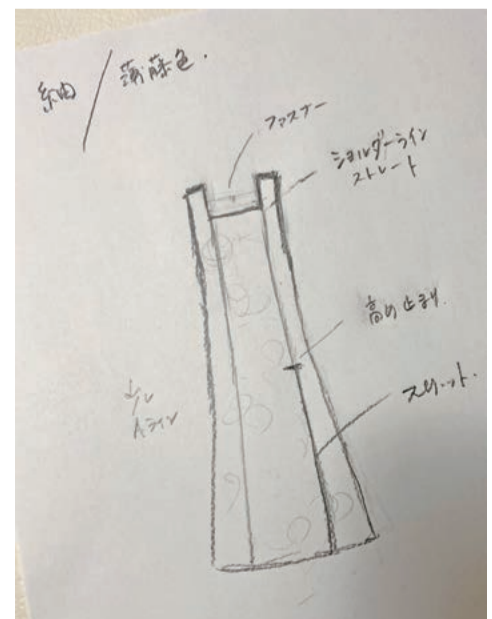


#1 prologue

着物リメイクを通して出会った、素敵な20代女性、理奈子さんとのエピソードを紹介します。来店きっかけは、理奈子さんの祖母の家にあった数え切れないほどの着物。元々曾祖母が着物を作る仕事をしていたこともあり、何十年の間タンスに眠っていた綺麗な着物を発掘したことです。でも実際に着てみたらサイズが小さめ、「着物は日常で着ないけど、これがワンピースのように、気軽に着られる服にならないかな?」と思い、探し出したのが蔵風香。

#2 history

理奈子さんは日本人の両親のもとに生まれ、アメリカで育った帰国子女。学校では「目立ちなさい」「一人一人違って当たり前」「何でもいから挑戦」など、個性を褒めてくれる環境で育ちました。14歳からは日本で過ごしましたが、人それぞれ違うはずの価値観をなかなか受け入れてもらえず「日本の社会に溶け込めない」と悲しい思いをした経験も。



sustainable kimono remake

#3 feeling

「実は着物リメイクについて周りに言えなかったんです。リメイクは時に高い金額を払って作ってもらう場合があります。今あるものを生かす、サステナブルに魅力を感じていましたが、『リメイクにお金をかけるより、新品を買った方がお得なのは?』という周りの意見を気にしてしまいました」と理奈子さんは振り返ります。

#4 remake

「日本の伝統とサステナブルが融合した着物リメイクを、より多くの人に知ってもらいたい」という理奈子さんの思いに応じて、持ってきてもらった数多くの着物の中から、パステルカラーのかわいらしい絹の着物を選びステキなワンピースに仕上げました。来店時、イギリスの大学院に進学予定だった理奈子さん。仕上がりを見て「早く現地で着たい!」と、とても喜んでくれた彼女の笑顔が印象的です。





#5 future

9月からイギリスでの生活を始めた理奈子さんから嬉しい便りが届きました。

「私の将来の目標まりましたよ！」

それは、蔵風香、サトウナオコさんのような仕事をする事です。」

思わぬ知らせに驚きましたが、サステナブルな世界観をもって、清く美しい日本文化の奥ゆかしさを、イギリスで暮らす日本人の視点から発信していくことだそうで、

「手始めに、ミシンを一台買いました。コミティの皆さんに教えていただきながら、着物を使った小物作りから始めています。」

と・・・

次回一時帰国の際には、着物の端切れを集めて持ち帰りたいとの話も、さっそく、お店の倉庫や自宅の押し入れを断捨離、今から再会が楽しみです。

蔵風香の着物リメイクがきっかけで自身の思いや感性を信じて生きていこうとする若い女性の背中を少し押ししてしまったようです。

次の世代に共感を得られたことに、これまで続けて来て、これからの時代に広がる波紋に、感慨深いものがあります。

「理奈子さん、がんばって！」

私もサステナブルな着物リメイクのミライをしっかりと見つめていきたいと思います。



艶やかなドレスシーンへ 着物リメイクあれこれ



黒留袖からドレスへ

セミロング丈のワンピースと、ヘチマカラーのボレロのセットアップ。本来の黒留袖のイメージを残し、柄は裾に配したデザインです。お好みで家紋も使いました。



付下げ着物からワンピースへ

裾部分の柄を活かしたAラインのワンピース。肘が隠れる袖丈で新鮮な印象です。袖とロールカラー部分にも柄を配して華やかな仕上がりの一着に。



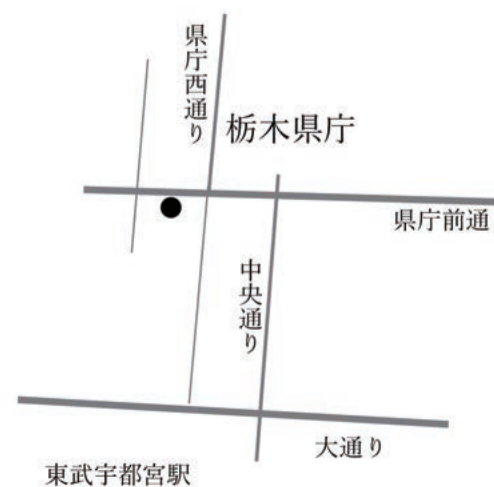
訪問着・付下げ着物から ワンピースへ

デザインはシンプルながら、着物本来の格と優美さが活きた、どの季節でも着用しやすい、七部～九部の袖丈のセミロングワンピース。ストールでコーディネートに変化が出せる、シンプルながら楽しい一着です。

蔵風香Information

〒320-0033宇都宮市中央本町9-4石ビル2F

TEL090-8043-9271



宇都宮駅



伝えたいこと サステナブルファッション。

遡ること江戸時代、家康が生み出した過の日の

日本は、循環型社会だったと言われています。

今で言う「サステナブル」です。

この言葉、30年以上前から存在していたそうですが、よく耳にするのはここ最近。

年々、着物リメイクの注目も増しています。

一度ご注文されると、「次はこれで」と、

多くの方がリピートされることもしばしば、

着物に宿る悠久の魅力に導かれるように、

それはきっと、先人の思いが永々と生きているからに

他ならないと思います。

一枚の布から縫製される着物は、

纏う人を替え、時には布に帰りながら、

次の世代へ受け継がれていく

宝物です。

大切な着物、

しまい込んでおく？ 出してみる？

さあごいっしょに「サステナブルファッション」

楽しんで見ませんか、

続く先に豊かなミライが見えてきます。

人生最高の一着へ。



YouTube



Facebook



ホームページ



ショッピング



Instagram



LINE





2023年がスタートしました。
今年のお正月は、ある意味節目になる様な時間からのスタートとなっています。
だからという訳ではないけど、年末のNHK紅白、年が明けてのテレビCMを見ていると、
発信そのものに世の中の潮目を感じてしまう。
若きシンガー達は、今までにない複雑な想いを唄う。
「あー理解できるわ」なんて簡単には言えない難解さ。
テレビCMも、字面が長いものが多く理解に一瞬止まる。
コロナ渦で、語彙が限られ、発言内容がある意味制限され、画一化された反動なのかも。
マスクや、ワクチン、行動制限など一種の群集心理疲れかな。
いずれにしても、誰もが自分の思いを出せる時代。
こちらも新鮮な思いに触れてみたい欲求でカラカラなので嬉しい。
そして大切なのは、そこにちゃんと心があるの？ってこと。
私自身、蓄積されて行くSNS発信の時間的量が、リアル時間を越えて行くであろう昨今。
自分の中の「本当」に向きあい、心をのせて伝えて行きたいと強く感じている。
世界は広く、多様で優しい。
きっと誰かに届くはず。
さあ、今年一年、幸せの宝玉をたくさん掴むぞー。

Facebook サトウ ナオコ 2023.1.3 より

